



# The Tables Turned Dec. 2017

発想の転換を

撮影：スウェーデン イエルナ

## あなたのクリスマスは何日続く？まさか25日だけじゃ…

あっという間に年の暮れ。子どもは冬休みで家にいる。クリスマス会が終わったと思ったら大掃除におせち料理の準備。まあ次から次へと忙しいことたら！

### 日本の年末年始は海外の2倍忙しい！

でもご存知でした？日本の年末年始は海外の2倍忙しいかも知れないって。

たとえば…クリスマスって何日ありますか？  
24日と25日の2日？

### ホントは長いクリスマス

実はクリスマスはもっと長いんです。24日のクリスマス・イヴ（Christmas Eve降誕前夜）、25日のクリスマス・デイ（Christmas Day降誕日）に始まり、東方から訪れた三博士と出会った1月6日のエピファニー（Epiphany顕現節）までの12日間をクリスマス・タイド（Christmas Tide節）と呼んでお祝いします。ただ、このお祝いも先立つ4週間の「ただ待ち望む日々」アドベントAdvent tide 待降節があったこそ。

当然、この間クリスマス・ツリーは出しっぱなし。26日に引っ込めてなにか別にお正月向けのものを出

す、なんていう慌ただしいことはありません。

### クリスマス、なぜ12月25日？

そもそもキリストは12月25日に生まれたわけではありません。3世紀、クリスマスをいつにするかは大議論の的でした。5月20日、4月18日か19日、5月25日、1月2日、11月17日、11月20日なども候補に挙がっていました。

それでも12月25日が選ばれたのは、北欧の「太陽の復活」、つまり冬至を祝うお祭りに重ねたという説が有力です。

自然界の光の復活に人間の魂のよみがえりを重ねたのですね。

冬来たりならば、春遠からじ。その嬉しさに浮かれるのも人情です。おいしいものを食べて、パーっと買い物したい方は大いにおやりください。そして喜びのお裾分けもお忘れなく。

春の訪れは光が土を温め、土が種を発芽させてから。それまでどうぞ温かくしてお元気でお過ごしください。くれぐれも冷蔵庫や換気扇を掃除しながらおせちを作る、なんて無茶はなさいませんように。

## ★通訳道場メンバー紹介★ 福島の先生の温かさを神奈川に 松井悦子さん

悦子さんは神奈川県立高校の英語の先生。育休中に通訳養成で研鑽をと考える半端でない向上心の持ち主です。こんなよき学び手である先生に習う高校生はきっと幸せ。英語も好きだけれど、それより高校生が大好き、と明言する悦子さん。その背景には素晴らしい先生に恵まれたご自身の経験がありました。ご出身は福島市。やっぱり！！福島の県立高校の先生方どうしの人間関係の濃さ、生徒たちへの関わりの深さ、授業のレベルの高さ、そして謙虚さは次元が違います、日本一です。悦子さんも始めは「私英語じゃべるのは…」何をおっしゃる。ペラペラどころじゃなかったじゃありませんか。お話しするたび悦子さんと私の共通点が次々出てきてもう笑うしかありません。…斎藤勇先生、福島高校、梁川、齋藤和明先生、いわき明星大学…出会うべき人には出会えるのだと実感、感謝しています。**私の福島学恩返しに欠かせない心強い水先案内人さんです。**2020年オリンピックの野球の試合は福島。福島と神奈川の高校生を通訳ボランティアとして一緒に引率しましょうね♪

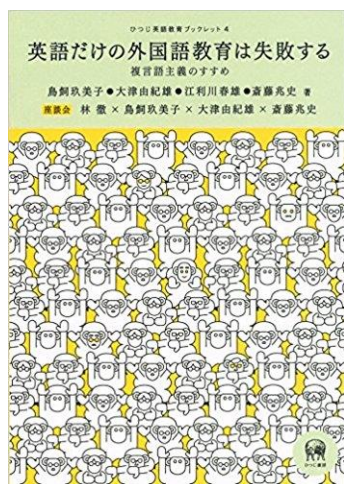


## ★イベント報告★ 映画とともにバイオダイナミックを味わう会



10月9日、11月5日に映画「ルドルフ・シュタイナーの挑戦」第1、2部を分けてのライブ同通上映とバイオダイナミック農産物を味わう会を開きました。全編は3時間半を超える長丁場。以前から「映画は半分にして、実際にバイオダイナミック農産物を食べる時間を」とリクエスト頂いていました。マグノリア農園・橋本農園（福島県岩瀬郡）の野菜、共働学舎新得農場（北海道上川郡）のチーズ、南アフリカ、スペインのワイン、ゾネントア（ウィーン近郊）のお茶が大好評。なかでも福島のかぼちゃ、じゃがいもと新得のチーズを合わせたラクレットが喜ばれました。**素材がいいと料理は最低限でよいことをますます確信しました。**

## ★おススメ★ 「英語だけの外国語教育は失敗する—複言語主義のすすめ」ひつじ書房



英語教育「4人組」（鳥飼・大津・江利川・斎藤）シリーズ4冊目。相馬弁研究者の小林初夫先生（親戚！）が送って下さいました。ひつじ書房さんにはいつも感服します。いっとき売ればいいという魂胆丸見えの、楽しんでほしい人向けの英語マニュアル本が溢れる中、これですもの。共同体のために教育を糺そうという志を感じます。内容は学習指導要領からヨーロッパの制度と深く、多岐に亘り、決して流行りの「わかりやすい」ものではありません。でも私は共感するところ多く溜飲下がる思いがしました。斎藤兆史先生のご意見出だしに噴き出してしまいました。「日本には、英語と言う言語の正体を知っている人がとても少ないように思われます。（中略）普段は極めて理性的・理知的な議論をする人の中にも、ひとたび話題が英語となると、感情的になって的外れなことを言い出す人が少なくありません。」**外国語のプロを目指すなら百家争鳴には関わらず、まずラテン語と漢籍を学ぶようおすすめします。**